

【日本文化会館の館長はイタリア人?!】

高田館長にインタビューすることになった時も、館長の事務室に入る時も、「はじめまして」と言った時も、私達は皆、恥ずかしくてドキドキしていました。でも高田館長はインタビューの間ずっと優しくかったです。高田館長は、仕事についてや趣味についての私達の質問に全部答えてくれました。高田館長は博識な方ようです。演劇を見に行くことや、クラシック音楽が好きな人です。本当にイタリア文化に興味がある人です。



主にどんな仕事を毎日していますか。

主に、事務所で文化会館が準備するイベントの開会のあいさつといった書類を作成したり、書類にサインをしたり、メールに返事したり、日本語講座の修了式や展覧会の開会でのあいさつをしたりします。そんな中、イタリア人からの質問にも答えたりします。

それで日本語もイタリア語も使うことがあります。時々、文化会館に来た人に、イタリア語で長い説明をすることもあります。イタリア人のお客様もよくいるし、友達の中にもイタリア人がいるし、イタリア語でスピーチをすることもあるし、イタリア語が話せるということは必要です。私は日本の大学のイタリア文学部で勉強しました。それに留学生として二年間ローマにいたことがあります。

日本にいた時、メディアからイタリア人についてあるイメージを想像したかもしれません。今イタリア人を実際に知って、そのイメージと違っていましたか。また、イタリア人が持つ日本人のイメージについてどう思っていますか。

日本にいた時もイタリア人とよく付き合っていたから、そんなにイメージは変わりません。昔のイメージのイタリア人と現在のイタリア人と同じだと思うのは間違いです。だんだん世界的に同じ文化になってきていますから、今はイタリア人も他の国の人とあまり違いません。この国に来たことがない人も、マス・メディアのおかげでイタリア人について知ることができます。でも、現在ではインターネットを使ってお互いに知り合えるので、ステレオタイプがあることは難しいことです。グローバリゼーション(世界化)で、世界中の国はどんどん似ていっています。例えば、テレビの中でイタリアと日本の番組はだいたい同じです。一つ例をとっても、「CHI VUOL ESSERE MILIONARIO」というような番組は日本にもあります。

日本人について、イタリア人はイタリアに来た日本人は皆似ていると思っているでしょう。イタリアにいる日本人は、そのイメージをどのように思っているのでしょうか。イタリア人が持っている日本人のイメージは、テレビとか映画とかアニメから受けたものだと思います。それで、日本人について少しわからないのでしょうか。なぜなら、それはフィクションの世界だからです。でも日本人は、イタリア人と同じように変わってきた国民です。例えば旅行の仕方を見ると、やっぱりわかるんじゃないですか？ 日本人は昔は団体で旅行をしていました。今でも団体で旅行している人がいますが、最近は一人で、または二人で旅行しています。日本人も STATUS QUO が変わってきているかもしれません。



ヴァレーリア・チポレッティ